

## 平成20年 第4回木津川市議会定例会 開会あいさつ

みなさん、おはようございます。

本日ここに、平成20年 第4回 木津川市議会定例会をお願いいたしましたところ、議員の皆様には、師走を迎え何かとご多用のところ、ご出席を賜り、厚く御礼を申し上げます。

早いもので、9月1日より新庁舎での業務を開始致しましてから3ヶ月が経過いたしました。

合併以降、加茂支所、山城支所、そしてNTT 仮庁舎と分散化しておりました本庁機能を新庁舎に集結させ、この新庁舎完成に伴いまして、機構改革、それに合わせた人事異動を行い、より市民の皆様の立場にたったサービスが提供できる環境づくりに努めてきたところでございます。

また、開庁しましてからの1ヶ月間、新庁舎入り口及び旧庁舎周辺に案内係を配置するなどして、市民の皆様に庁舎移転に伴うご不便をおかけしないよう対応させていただきました。その結果、大きな混乱もなくスムーズに業務をスタートさせることができましたことをこの場でご報告させていただきたいと存じます。

現在は、皆様ご覧のとおり旧庁舎の全ての別館は取り壊され、旧本館のみが残っている状況でございます。10月末現在で工事の進捗率は94.7パーセントとなっております。

今後は、周辺整備を行い、平成21年夏頃には駐車場等を含めた新庁舎建設事業が完成する見込みとなっております。

庁舎も新しくなり、改めまして、職員一同 気を引き締めて業務を行ってまいりますので、引き続きまして、皆様方のご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

それでは、まずはじめに 本定例会冒頭の貴重な時間を頂きまして、先の定例会以後の市政の状況等につきまして、ご報告させていただきます。

10月上旬に今年度のノーベル物理学賞の発表がございまして、3人の日本人が同時に受賞するというわが国にとって大変喜ばしい出来事があったことは、皆様の記憶に新しいところと存じます。そしてさらに喜ばしいことに、この中の南部博士と小林博士は、木津川市にあります国際高等研究所の現役のフェローであり、また過去においてフェローであったということでございまして、木津川市に立地する研究所にゆかりのある研究者が受賞されたということは、市民にとっても大変名誉なことでもあります。

今後も、この喜ばしいニュースを契機として、学研都市に立地する各研究施設がその知的財産を活用し、一層発展されることを期待するとともに、これからの魅力と活力あるまちづくりに今以上のお力添えをいただければと考えております。

次に恭仁宮跡で『朝堂院』の建物遺構が見つかったとのニュースでございます。朝堂院とは、当時の大臣級の役人が政務や儀式を行った建物のことであり、京都府教育委員会の発表では、『わずか5年の都だが、重要施設が整備されていたことが確認され他の都に見劣りしない立派な都であったことが分かった』とのことであります。

木津川市といたしましては、今後関係者の皆様と共に平城遷都 1300 年祭や国民文化祭などで、この恭仁京を活用して参りたいと考えております。

次に、コミュニティバスについて、でございます。

市では、木津川市地域公共交通総合連携協議会を立ち上げまして、市民のみなさまにとりまして、使いやすく、満足度の高い公共交通となるよう取り組んでおります。11月からは加茂地域と山城地域におきまして、コミュニティバスの再編に向けた社会実験をスタートさせていただきました。

主なポイントといたしましては、加茂地域ではJR線との乗り継ぎに考慮したダイヤとし、バスの本数を増便するとともに、迂回が多く複雑な路線を見直し、加茂駅への時間短縮を実現しました。一方、山城地域では要望のありましたJR木津駅と直結し、JR線との乗り継ぎに考慮したダイヤを設定しました。新たに、バス停も設置し、平日は、毎日60分間隔で運行しております。

今回の社会実験は、平成21年3月31日までの運行でございまして、平成21年4月以降の運行につきましては、社会実験期間での利用状況や課題等を整理いたしまして、また、市全域での運賃負担のあり方等について、引き続き検討・協議を重ね、実証運行に向けた取り組みを進めてまいりたいと存じます。

次に、大変嬉しい動きであります。既に議員の皆様も新聞報道によりご存じのことと思いますが、京都大学の農学研究科において、現在、高槻市にございます附属農場を学研木津中央地区への移転に向けた検討が進められることになったことでございます。

今後、移転が決まりましたならば、木津川市はもとより、学研都市として建設当初から、悲願でありました京都大学の進出でございまして、このうえない喜びでございます。

何といたしましても 立地に向けまして、市として万全の体制で支援してまいりたいと考えているところでございますので、議員の皆様におかれましても、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。

次に、(仮称)同志社大学付属同志社インターナショナル小学校の誘致について、でございます。

先ほどの京都大学の誘致と同様に、同志社大学付属同志社インターナショナル小学校の誘致は、木津川市のこれからの発展、さらには関西文化学術研究都市のさらなる発展に大いに寄与するものであると大いに期待しているところであります。このたび、市と学校法人同志社との間で、小学校の設置に対する基本的な取り決めについて、協議を行い、最終的な合意が得られたところでございます。

具体的な内容につきましては、議案の提案趣旨説明で、詳細をご説明させていただきますので、よろしくお願いいたしたいと存じます。

次に、現在策定中の第1次木津川市総合計画について、でございます。

市の総合計画につきましては、総合計画審議会において検討が進められているところでございますが、去る9月16日に真山会長から中間案の答申を受けましたことから、市民の皆様へ広くお知らせするため、中間案の概要版を作成し、10月号広報に折込みを行いました。

また、同時に市民の皆様のご意見を踏まえた総合計画とするため、パブリックコメントも30日間にわたり実施をし、市民の皆様からの貴重なご意見につきましては、今後、市の考え方と合わせまして、ホームページ等で公表させていただきます。

さらに、11月15日の中央交流会館で開催されたのを皮切りといたしまして、これまでに計4回の住民説明会を開催したところでございます。市民の皆様からの貴重なご意見につきましては、議事の概要をホームページ等で公表するとともに、パブリックコメントでいただいたご意見とともに、総合計画審議会へ報告させていただき、ご審議をいただく予定でございます。

次に、企業誘致につきまして、ご報告させていただきます。

今回、新たに木津南地区内の1.7haの用地に本社が大阪市にあり、工場が城陽市にございます株式会社ミズホの進出が決定いたしました。同社は、ベアリング、自動車用部品、家電部品などの機械部品の高精度精密研削加工用の砥石を製造販売する企業でございます。

本市におきましては、従来の金属加工のみならず、ガラス、セラミックスなどの素材に適用できるナノテクレベルの超微細な砥石の開発や産官学の共同研究の実施による新製品の開発を目指されると伺っております。

これにより、木津南地区に立地する研究施設は、6施設目となりました。

昨今の世界的な景気後退により、日本経済も不況が懸念されるようになってきましたが、木津川市への企業誘致に向け、これからも邁進する所存でございます。

最後に、(仮称)行政地域制度(案)の制定についてでございますが、現在、合併前の旧町ごとに各区長会を開催して頂き、説明会を実施しております。旧木津町並びに旧山城町につきまして示させていただきました案について、ご了解いただいたところでございます。旧加茂町は、来る12月6日に開催をお願いしております。合併協定項目の中では、合併後、市として制度を見直すこととなっており、今回、木津川市として統一した制度で、平成21年度から施行してまいりたいと考えております。

さて、本定例会にご提案いたしております 議案等につきましては、お手元にお届けいたしておりますとおり、同意6件、議案17件、報告2件となっております。

詳細につきましては、後ほど 説明させていただきますので、よろしくご審議いただき 全議案ご議決いただきますよう お願い申し上げ、簡単ではございますが 開会のごあいさつとさせていただきます。